芭蕉翁句解

秋冬

中村俊定文庫
文庫 18
365
2

芭蕉翁句解

高中清蔓吉述

法師の墨小袖庵や岩の上、

此句の初五ハ乃夜風雨あきる　遍照小町ハ
京ハ比叡山ハ高き人なり　岩ハ上り袖
庵ハ法師ハ墨ハ黒き人か称ハ小町　世ハ黒く
苔ハ岩ハ高き人か称ハ　いさふり袖ハ遍照
庵ハ法師ハ遍照　又松風ハ
紙合ハ　此句芭蕉句撰ハ　七夕ハ　

合歓乃木の葉ごしもいとへ星の影、

新後拾遺集　七夕の恋も限をいましめて一夜のうちにとひつくすらむ　合歓ハ何しさま葉閉き夕にちゞむで眠るなれバ

おとくかれを絶々相(?)の木にいてら一夜の契りかはせバ

契りもいとへとかりの錦けうとれんに座へり

何さうほに我も旅ふ松ともか、

世ハ常に朝顔の朝かく移ろく物也枕を高くして背

席をそむけるにハ銀杏の句なら留しをく劉

むかしのふへし神日記といふ、ゐこの心から遊き

春乃月に遠川朝かく花咲散らむといへる事にも契をまて

あれしけむ句やまかなし　口受

三日月や蕣の夕つぼむらん、

三日月の朝顔をよぶ花の夕とみて蕣に志ある梅

花にはつぼむらんといへるもれいのまつかくいふ其る

この句ハ　三日月や何さかの名へはつぼむらんと

おせり夕や名ともに書写乃行やまりける

ものなりん

丹野亭

[illegible]の[illegible]の[illegible]
笛鼓[illegible]
画く[illegible]の[illegible]

稲妻や[illegible]の[illegible]の[illegible]

秋[illegible]
この[illegible]

稲つゝよさゝぬ人の[illegible]

[illegible]師のいく吾[illegible]
[illegible]
三十棒の[illegible]
思心念底をはら[illegible]

田川の[illegible]を[illegible]

秋[illegible]

客舎并州已十霜帰心日夜憶咸陽無端
更渡桑乾水部望并州是故郷

さまよひくらし松嵐けしやかな花、

讀古今集　行こし代のふる昔乃をも尋へしかは
あはれとも常也かな遊

兄波世は詠まれは須磨の秋、

兄波世は明石より須磨の風景まさる人も
絶えしは旧事を尋ねしかはむかしや忍ぶれもいはむ須磨の
浦花をしのふ人もし自ら詠花の月のよにあまた
ぬ、あはれしく詞ま書かれそとも、

宗祇戸の月やそのまゝ阿弥陀坊

宗祇の居られけるハいやしき名なれとも世にたのもしき記
ものとして阿ある西上人例の山家集の例をひきて入る
此叟の観想なり　又阿弥陀書に曾て空也無水之地多
穿井々必井冷汲其常唱弥陀号俗名弥陀
井往々而在焉荒原曠野毎逢遺骨掘聚
一處念弥陀名則ち世の人阿弥陀ひじりとも
いふ又市上人ともいへり今中乃阿弥陀坊
これよりなり

名月や池をめぐりて夜もすがら

芭蕉庵一夜の佳興多し。青の行とは竹のかげ紅やうたさしかりしより下句をとりて詩を吟ずるやうに光景眼前にうかぶ。池めぐりは池を去りて去りがたく夜もすがらは月の明るきまゝに晩に士峯に光をおさめて物の姿相も新しく月はやはりきよくして俗塵のかもなし。

心字の句の字用乃無きて言葉人に向ひて我は見ひとり初学

古庵の形貴は赤しゝんねりして丸く光俳の長句なくしも古い行く程い言葉より句をかりてみしかきオは知しるべる

外宮てかれ月見哉

荘子斗斛成而天下人始爭とあらはかるの外宮ていものなる事は信士のかれのかりを有りかるあるもの知よ自情をむしし

名月や新しき哉もなし

四頭一笑百媚生ス六宮粉黛無顔色ス

このゝよかなゝ

蓑虫庵

今宵誰ゆゑの月ぞ十六夜

新古今集　上皇ノ仙院ニ侍ケルトキ月ヲヨメル　蓑虫庵ハ祖翁の古跡伊賀ノ山中なり

けふの十六夜ハ山中ゆゑ芳野人の行程なゝ

月さしよ明智ヶ嶽ノ蚊ノ声

けふの行ちに伊勢路ヨリ云ヶ来るよりあらん行ク民ヶ書の

男ノ子ハ〳〵く拙ク洒ヶ渡りわゝる見ハ〳〵ハ絵のゝと安く

赤ノ子ハ白ク白ヶ素女髪を切〳〵席とまゝ〳〵ハ

幼ノ女ハ今夏中ハ行ヶ来て指杖の吟ハ〳〵行ヶを聞ハ

白ク云ヶ来ルハ多し〳〵ハ〳〵他ハ純ヶ芳ハ花ハ

本間亭

源家ハ兼ヶ日ヶ来ル田三反、

山居ハ上田三反味噌ハ中小者ハ〳〵ハ小者ハ〳〵ハ

一体稲作ハ〳〵ハ本間ハ百姓大坂の行なり

李吟所の門人なりて芭蕉翁と友とす

菊の後古枝に残る朴の葉

不是花中偏愛菊此花開後更無花

白よりかなるうるはしの金精おりひろいまつし

園女亭

うつくしき菊の目よりて思ふ春もあり

ものうきたびのうたの人なる春秋見る世とおぼ

しや　西上人　此句の意を摘て園女の生質を称

せりそののいかに七夕川山田源介氏の女なり後に

武江の深川に移る眼科をよくし業に業に

又俳諧を世に書をよくし殊に歌に長し　古墳は

靈巖寺に佛堂をあり辞世の秋の月を乃曙

うつ夏の夜のうたの菊を行るる

本居氏うちに浮世の人乃古墳か、

此句まことにうちの様の字なるべし　誠に本居氏山陰く

若くうしくをの浦に市町を離るむしろう

夜にうたれまつるうたの人て多くて有に浮世乃

二字カ[illegible]晉摯虞入南山飢甚拾橡實而
食又杜甫詩 歳収橡實隨狙公

[illegible]

淮南子説林曰湯沐具而蟣虱相吊大廈
成而燕雀相賀

義朝乃松乃秀、
只聖[illegible]の秋の風を[illegible]

〇歐陽永叔秋聲賦曰夫秋刑官也於時為陰
又兵象也於行為金是謂天地之義氣常以肅
殺為心

[illegible]

[illegible]の秋の風、

新古今集 旅人の袖吹返す秋の夕
[illegible]山乃[illegible]
風雅言外[illegible]の[illegible]の
秀句と他日記[illegible]

小川の名を聞くよりこそ
捨子の哀を添ひ秋の菓子
なけくなるし

猿を笑人　捨子秋の風いと、

巴猿三叫ニ暁露行人之掌　三声ひとつ聞くに
きけるを活人の相ひとしき猿を聞くに　まぬた
ぬ[illegible]かの[illegible]きを笑ひ[illegible]から智かきを[illegible]
時雨[illegible]ふる[illegible]猿の捨子の秋風ふかくと暁の
猿と秋鳴いつれ[illegible]ふるからむとて又[illegible]を或集に
さる[illegible]きて捨子に秋の風いと[illegible]白[illegible]

[illegible]猿を風雪独り[illegible]

加州金昌寺にて

庭掃くかりやすにちる柳、

世説曰郭林宗毎行宿逆旅輒躬自灑掃及明
去後人至見之曰此必郭有道昨宿處也と
らのちかからむ白[illegible]

むくけ秋又敬之　相撲う、

相撲うち兵[illegible]

みちく古代を去て人ゝの白髮ましまして或記曰東八ヶ
岳乃大力菩薩と云一人ゝ僧舍右大臣の沙彌と為て
立ちて南方に勝百紙分を行ふ形勢を彼の
自負紙おのゝ多し立ちたる見をむる為山馬帽子
まかりて出家の肩をつゝ法を行ふ

芳野にて

行ゝ春ゝ春せしや坊ゝ書、

みちく野山の秋色小春なく春ゝ春ゝ
ひとを高笑ゝゝきめて紙を多し坊主

伊勢の町坊ゝ入ゝ彩を
多ゝ信者紙ゝ
商ひて蜜柑の湯ゝ休ゝ

柑枝と鳥ゝ柑の香、

ひとゝ八季吟ゝ紙書一流彩立の業話侍の
一書ゝ支本集と 書ゝ寸ゝ孫ゝ箱て
ゝ家の肢ゝ紙ゝ 長崎書ゝ
かゝ只一ゝ世乃彩ゝ
同子書の祝想ゝ

夕新や枯れる色くの紙帳、
夏ちかのあるかの門前ちそ、春宵一枕いろくの紙帳
ゆるるは此詠乃ふかしうや哉の句法受

深川文墨亭

口切り堺乃産とあるしき、

泉州堺より利休居士掛物の表地なりの書色あり
ちなれは此表地を蒼海満くしと思ふ成ふ悲く
枯かんしるはあるしはふるまいかしはるまいかしはるまいる

茶侍の書に 南もこうあるか宗祇

出新蕎や他の麦うか酒か休、

日蓮上人の報書より新麦一斗笋三本他のやうか
酒の肴南無妙法蓮華田向いうは又蓮華也
行六亭より絵屏の内此坡寺と書く新麦より笋ハ
ちと夏白の抑合あるとて書しるに新麦や
笋ちと紀乃国の名ちと白仏く行六亭ちと
ちと晋子ちと遠いちと乃保氏ありとや名も
かるる丁寧ちとしみの五百ちとし

杜牧之

[illegible]

[illegible]杜牧之生質[illegible]称する吟[illegible]山家
集に　菓[illegible]る伊吾古の嶺をうたがひて[illegible]
かなる山[illegible]いらこよ[illegible]抑合[illegible]

水苦く　偃蓋　嗣を　閑せを

莊子逍遥遊　鷦鷯巣於深林不過一枝　偃蓋
飲河不過滿腹

范蠡の趙南の[illegible]

山家集[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

西上人

[illegible]

多田

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

例ノ場賀和乃[illegible]

[illegible]勝ノ[illegible]ノ多度權現ノ伊勢[illegible]

俗、俄落柿舎ニテ

長嘯乃塚ハ[illegible]

長嘯子ハ本下[illegible]狩ニ[illegible]ス金吾中納言秀秋

の舎兄ニ[illegible]ノ後ハ世ヲ[illegible]ク宮東靈山ニ

[illegible]和歌ヲ[illegible]ヲ変[illegible]ノ[illegible]

[illegible]ヲ[illegible]ク舉白集ニ[illegible]ハ臨山乃

[illegible]

貧山の茶[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]貧寺

[illegible]俳士[illegible]ノ貧寺

貧山ト[illegible]韓昌黎上賈滑州書　豊山

上有鐘雪人所不可至霜既降則鏗然鳴蓋

氣之感也

伝法語をとる

言ちかや 穂屋の苅田

信州諏訪明神御射山祭七月廿七日也 古記の穂と
りて神仏に供ず 小弓にて射る 神饌
高坏に盛る 穂屋乃神事 一日目吉兆多し
尾花ちかやの中に一むら 八月一日 里方
秋のさかり 東西の山田の時乃むらき
対人分 苅田の初 仕方の
ふるかをひと 高坏の

東西に吳天高く月あんん

釋惠崇詩 笠重吳天雪 鞋香楚地花 他
年訪禪室 寧悼路岐賒 ちかひたる
ちかひ二祖 高僧 ちかひ
乃人の源切も 源といへる 世の稲株 結ぶ

財門人 信

ちかや世乃 姉 傳 古盒子

此吟句撰 古 拾 神紀 乃 師の

又芭一具雅俊主翁亀の踏通法師七夕の法
楽の発句を請られ侍るに何とかなり

[illegible]

碧海 [illegible]

[illegible]の月

月夕紀師走い[illegible]

師走の月[illegible]

又拙句[illegible]師走い月[illegible]

附録

山い家寄梅の色は黄ばみ

此句最句[illegible]伊賀国行[illegible]寿三の
吟なり 句法太山口授 最句の部[illegible]後の世[illegible]
祖翁[illegible]
風[illegible]祖翁[illegible]

後人風を好く愛句〻〻多り中にこの集を
おもいたくるるもわるもの師の紀日記をうつす
此句は亭崎の松乃下紀切字は強句なきこゝろ紀
おもしいつも好年は月にそもを求て是他を
得て泊船集にしるす光井の明神にて紀吉りの
古意の句。なれども句法語句のいとゝやゝこがき
器をもりて此一集おりに亭事なすくおて
所〻に書〻なれ所なる又他日
紀はいとく才三のそゝ句事を知て写
句は中ともいぬ所〻なの法なくて方

三知るといとねしを本師伝あき昭年三月句を多し

芋も生そう秋風きくやうの山

此句は良に今ゆり松くれなる見人今〻し

おねの山ゆもむく高くの塩生

そのかゝは苔地くるし小梅張、

菊奥ねの塩を生ゆ立ゆり松れ法
知る見合〻この句續猿蓑集より公ねの
吟ゆり菊と生写の語を

[illegible]

山の陽須磨の[illegible]葉を見て

さそふ郭清の小唄宴の花

桃青二百負の素堂老人の白なり

是詰もく信もたゞ白乃也

杜國の白と芭蕉の小文と合一

言あらに翠花もむ江布代

箱の吟よ竹の[illegible]

あとゝ和帆を[illegible]風の[illegible]

一晶の白なり

[illegible]

原中やかすもつゝたる[illegible]

独日記より[illegible]

伊よつくるもの紀[illegible]

聚乃軒[illegible]

おとなしいやうな歯よ嗜歯しの雨蛙の鳴
歯よりうるさのおとうしやはあるの鳴

屋敷風の入日やうそぶくやうな夕ぐれ
屋敷月や日数しけるふ夕ぐれ
敷風に手日数や弱る中ぐれ

樽の梦波をおく腸氷る夢や泪
樽の梦や鳴らるる夢いかうる

みの月の六日いとなるる夢や鳴
文月や六日も寄れば夢
萩原や一夜をやとせ山の大
根に一夜をやとせ萩うれし
仏ぬれ吐ぬ三日の月
ぬるる夢ぬ三日吐月
月ぬれと面白やうし涼の夢

月見てしもの[illegible]

右十七章独自記より面白きを再案再考おこなひ
書き改めの百編ばかりしむ

藤乃家物語より[illegible]

蕙云はく白氏日記に公榜より[illegible]
人を送るを[illegible]

格物の志の[illegible]月は名[illegible]

蕙云この白独自記より石山[illegible]

大井川清流乃波よ蕙[illegible]し[illegible]乃月
清流乃波よ蕙[illegible]し[illegible]乃月
清庵の水波[illegible]
清流よ[illegible]

蕙云この白い[illegible]
[illegible]園女亭にて　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

宗匠

花をたづねてまかりあるべき日取

（イニ花ヽ）

蕉云花乃初中後と大概三七廿一日取行る

しかるに句ごとに字ごの位とゝのふべし

いさゝか一色ゝとゝのふ法なきく

蕉云十句月の新ゝ乃葉ゝ素堂亭殘菊白ゝ乃秀

時ゝ乃色乃落もかなしう

蕉云世句漢花句撰ゝ乃貞享紀行ゝ合ゝ

五月ゝ〳〵新ゝを絵まゝる杜鵑かな

（イニ立時かな）

置のちゝや蓮はまゝゝく白鳥

蕉云この句色乃部ゝ乃第七ゝ

此句ゝ用ゝゝ色ゝ乃ものハ皆ゝ

蕉云（イニ）ハの字乃師伝を受ゝ

[illegible]
イニ東の香や

夢云句法影略互顕口授

[illegible]
イニ[illegible]

夢云此句い杜鵑の師匠[illegible]の句
かえし名所より新乃掛[illegible]句宗[illegible]

暑日を海へ入る宮上川、
イニ[illegible]

家家い四角かうけを宮乃月、
イニ[illegible]

[illegible]
イニ[illegible]

宿[illegible]名[illegible]
イニ宿かり[illegible]

清杜国

れいあ[illegible]荒[illegible]紀[illegible]此[illegible]の香
[illegible]

風[illegible]寺[illegible]

[illegible]
イニ出し[illegible]

杜[illegible]
イニコ

夢ニ、田家ニ宿ス、板壁ニゴロフシ事ヲ語ル
ごと夢てとなるハ張ぶり

月代や縁ニ寝ながら雲の宿　イニ雲

排り

十六夜もまさぬ秋乃弱ル　イニ弘

わつと山や明くうち抜く夕涼　イニやの字ハ誤て考

この宿い水鶏ハ去ぬ蛙ハ星　イニも

ほうきも大竹原を淺月夜　イニ薮

夏乃月伊地ハ出ぬ赤坂や　イニこう

かはらぬ活くかりも初松魚　イニを

田家

麦飯よやけて鼠ハ猫の書　イニ里の猫

名月ハ子ハ寝て寝田の榕　イニ秋田の月

一尾根ハ去ル河ハ雲ハ子の言　イニ一尾根い

跋

翁之遺藻流世也久矣乃
深指好士莫不珍之寶乎
有遺味則俾人一唱之歎
唯膚淺之徒以為是雖玄
酒大羮也古拙無味蓋知
其眞者鮮矣雪中薤並嚼
之大匙晚沓年于此業已

刀筆友

佐賀市立

識勞薪炊之餘雜溷濁
意其多年之所味掘以注
鴻糞令他屬厭而已耳所
謂吻吻鳴鹿取其麋倒其
亡在斯乎其亦在斯乎
文人東志書于遣逸園

福岡藩
東北